

# 初

百万石蝶談会



NO. 88 FEBRUARY 1991

## アサギマダラを8月から9月に飼育

松 井 正 人

例年、押水町宝達山では9月に入らないとアサギマダラは観察されないが、1990年は8月から多数観察され、8月11日には交尾雌も得られたので、この雌から採卵し、8月から9月にかけての高温期に飼育を行った。

採卵は8月11日より、150×60×30cm のケージにオオカモメヅルの鉢植えを入れて行い、8月29日までに58卵を得た。ところが、これらは食草には生まれず、総てケージの網(ビニール:グレー)と植木鉢カバー(プラスチック:白)に生まれた。さらに孵化したものは、わずかに3卵で、残りはそのまま干乾びてしまい、その中には卵の中で幼虫体ができているものもみられた。飼育はそのままオオカモメヅルの鉢植えで行い、結果は以下の様になった。なお採卵、飼育は総てエアコンのきいた室内で行った為、室温は日中で20℃前後まで下がり、夜間は外気温まで上昇するといった逆転現象を起こしていた。

孵 化	羽 化	幼虫期+蛹期
8月23日	9月20日 ♂	28日
8月30日	9月28日 ♂	29日
8月31日	食いつけず死亡	

このデータを同様の方法を用いて1月後の9月から10月にかけて行ったもの(1987年)と比較したのが次の表である。

採 卵 期	8月11日～29日	9月14日～21日
飼 育 期	8月23日～9月27日	9月17日～11月3日
産 卵 場 所	ケージの網、植木鉢カバー	ケージの網
孵 化 率	5% (3/58)	58% (43/74)
幼虫期+蛹期	28.5日 (平均)	39日 (平均)
平均気温	27.9(8月) 23.6(9月)	22.4(9月) 17.4(10月)

(平均気温の8月9月は1990年、9月10月は1987年の金沢气象台データ)

高温期の孵化率は異常に低く、成育期は大変短い。違いの原因は、この時期毎日の様に続く30度を越す気温にあると思われ、この高温が孵化率を極端に下げ、成育期を10日も短縮したものと思われる。しかし、わずか5%の孵化率は飼育下において生まれた数字の様であり、自然界では、このような条件(酷暑)での産卵は行われないうような気がする。おそらくは日中の20℃前後といった作られた気温に、惑わされた結果ではないだろうか。そうしてみるとケージや植木鉢カバーといった食草以外のものに産卵したのも、不自然に産卵した結果かとも思われるが、9月から10月の結果も同じ事から、これには何か別の原因がある様に思われる。《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## 飼育失敗記：その1 《スギタニルリシジミ》

野 中 勝

人は失敗をする。失敗すれば考え工夫し、次回に成功を期することになる。しかし、それでもうまく行かない事もある。そんな時は1人で悩むより、公表して広く助けを求める方が良いのかもしれない。そう思って最近の飼育の失敗を幾つか紹介してみたい。先ずはスギタニルリシジミである。

スギタニルリシジミの採卵、採幼が極めて簡単であること、しかしながら飼育管理はなかなか難しく、数10頭の本種を飼育して、1頭もまともに羽化しなかった事は以前に報告した(翔NO.56, 1986)。主な問題点は室内に於ける越夏だと思われたので、その点を工夫して再度本種の飼育に挑戦してみた。

1989年5月14日及び21日に、吉野谷村中宮温泉付近で本種の幼虫を採集した。14日には中西重雄氏に、21日には中田泰介氏にご同行頂いたので、ここで感謝の意を表したい。両日を合わせて、初齢から3齢までの数10頭の幼虫を採集したが、家に持ち帰ってからでもトチの花穂について本種の幼虫は発見が極めて困難で、正確な数は不明である。色彩、斑紋パターンが変化に富む本種の幼虫は見ているだけでも楽しいが、寄生されている率は非常に高い。6月8日～13日に、本種の終齢幼虫より脱出してマユを作るハチの一種が14頭、6月13日～18日に本種の蛹より脱出して裸の蛹を作るハエの一種が3頭羽化し、結局34頭のスギタニルリシジミが無事に蛹となった。その内3頭が6月中に黒くなって羽化の前兆を示し、6月23日に1♂が無事羽化に至った。他の2頭はそのまま腐ってしまった様で、遂に羽化しなかった。8月2日に生存している31蛹のうち15蛹を冷蔵庫に入れ、そこで越夏させた。10月に入ってから、室温で越夏させた残りの16蛹も冷蔵庫に入れ、1990年3月3日に総てを室温に戻した。3月8日に冷蔵庫内で越夏したものの内1頭(♂)が羽化したが、他は全て死亡してしまった。死亡したもののうちの多くは、夏までに翅などが完全に形成されていて外からでも雌雄の区別が着く状態になっており、問題は羽化の最後のステップに存在すると考えられた。この最後のステップさえクリアできれば、格調高い(かもしれない)本種の夏型の♀にお目にかかれるので、皆様のアドバイスをお願いしたい。

採幼 (5月)    ---→    ハチの一種 (14頭)、ハエの一種 (3頭)

↓

蛹化 (34頭)    ---→    羽化 (1♂)、腐る (2蛹)

↓

冷蔵庫 (8月に15蛹、10月に16蛹)

↓

室温 (翌年3月) ---→ 1♂羽化、死亡 (30蛹)

《のなか まさる 〒920 金沢市末町14-70-2》

石川県に於けるゼフィルス分布

松井正人

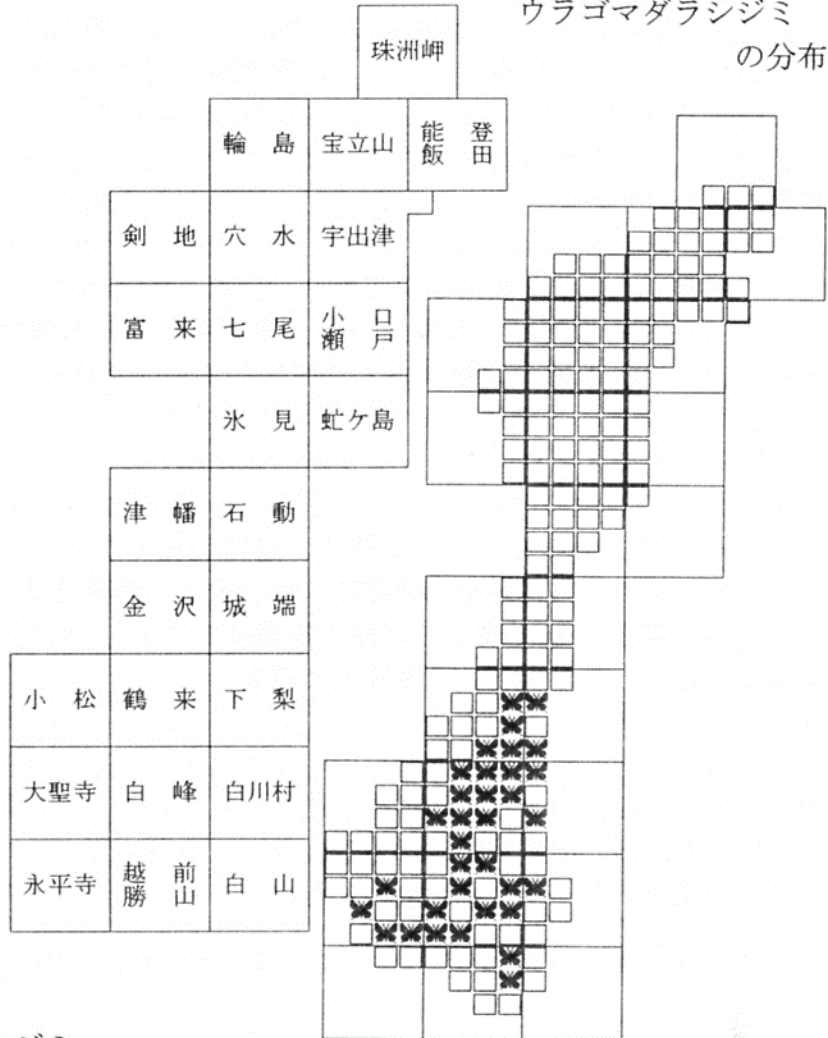
石川県のゼフィルスについては、吉村久貴氏の大作（翔NO.5,1979）にまとめられているが、その後、数多くの新産地が追加されている。例えば、50年代の記録が3例だったムモンアカシジミは各地で発見され、アイノミドリシジミは押水町宝達山、エゾミドリシジミは輪島市宝立山でも確認されている。

そこで今後の調査の参考になればと思い、再び県内産全種にわたりデータを整理しながら、数回に分けて紹介したい。また今回はデータ量が多いので、同産地のものでは新しいものを採用し、分布図はメッシュ分布図とした。

メッシュ分布図については、石川県をカバーする国土地理院発行の5万分の1の地形図25枚をそれぞれ16等分して用い、そのメッシュ中に分布地が1カ所でもあれば、そのメッシュを「✖」として表した。

石川県をカバーする地形図

ウラゴマダラシジミの分布



1 ウラゴマダラシジミ

標高わずか2~3mから1,200m前後まで産地が知られ、金沢市以南の雑木林には広く分布すると思われる。どの産地に於いても卵が簡単に多数発見される割には成虫が少ない。能登でも卵調査は成されているものの、発見には至っていない。また、武藤明氏が七尾を産地として紹介している<sup>9069</sup>が、ここでは取り上げなかった。

文 献

1987年12月26日	金沢市キゴ山	1 0 卵	澤田 博	
1981年11月14日	金沢市医王の里	4 0 卵	嵯峨井淳郎	2026
1988年 7月 9日	金沢市医王山	7 ♂	指田春喜	2071
1978年 7月 4日	金沢市医王山重山分岐	1 頭	吉村久貴	2001
1985年 2月 2日	金沢市観法寺	1 0 卵	松井正人	
1978年12月17日	金沢市見定	3 2 卵	井村正行・他	
1984年 4月15日	金沢市古屋谷	7 卵	松井正人	
1972年 5月25日	金沢市戸室山	1 頭	入場 登	2005
1977年 6月19日	金沢市山科	1 ♀	松本和馬	2005
1989年11月25日	金沢市四坊高坂	ふ化殻多数目撃	野中 勝	
1957年 6月16日	金沢市小原	1 ♂	村中泰次	9015
1956年 6月18日	金沢市小平沢	1 ♀	手塚正一	9015
1987年 1月17日	金沢市清水谷	数卵目撃	松井正人	
1980年 3月27日	金沢市倉ヶ岳	幼虫目撃	諸道秀人	2013
1984年 9月29日	金沢市倉谷	2 8 卵	松井正人	
1978年12月30日	金沢市大桑	1 卵	松井正人	
1978年12月31日	金沢市大平沢	8 卵	松井正人	
1988年12月 4日	金沢市地代	数卵目撃	野中 勝	
1983年12月10日	金沢市湯涌曲	2 9 卵	松井正人	
1979年 1月25日	金沢市白見谷	8 卵	松井正人	
1982年11月28日	金沢市菱池	3 3 卵	野中 勝	2036
1972年 6月18日	金沢市平等本	1 ♂ 3 ♀	松井正人	2005
1978年12月10日	金沢市夕日寺	1 6 卵	松本和馬・他	2003
1980年 7月 1日	鶴来町獅子吼高原	1 ♀ 目撃	嵯峨井淳郎	
1983年 3月27日	鶴来町小柳	1 5 卵 (孵化殻)	吉村久貴・他	2040
1984年11月30日	鶴来町白山	4 3 0 卵	中西重雄	2048
1983年 4月17日	河内村板尾不動滝	6 幼	吉村久貴	2042
1981年12月 6日	鳥越村左礫	2 7 卵	野中 勝・他	2027
1983年11月23日	鳥越村杖川	2 4 卵	松井正人	
1983年12月 4日	吉野谷村瀬波谷	1 2 卵	松井正人	
1985年10月27日	吉野谷村中宮温泉	3 卵	中西重雄	
1982年 7月 4日	尾口村丸石谷林道	1 ♀	中西重雄	2040
1982年 7月 4日	尾口村新岩間温泉	1 ♀	中西重雄	2032
1982年 4月25日	尾口村深瀬	2 幼	松井正人	
1981年11月22日	尾口村目附谷	9 卵	嵯峨井淳郎	2027
1981年11月23日	白峰村赤谷川	1 8 卵	松田俊郎・他	2027
1979年 6月23日	白峰村白山釈迦道入口	目撃	川瀬秀夫	2006
1980年 7月13日	白峰村白山釈迦林道	1 ♂	吉村久貴	
1972年 7月31日	白峰村白山六万山	1 ♀	松井正人	2005
1984年11月24日	辰口町坪野	約5 0 卵	松田俊郎	2051
1983年 3月27日	辰口町仏大寺~観音山	2 2 卵	吉村久貴・他	2040
1984年 6月19日	小松市岩淵	1 ♀	中山佐一郎	9036
1983年 5月 8日	小松市新保	1 幼	吉村久貴・他	2042
1984年11月18日	小松市大山	2 5 卵	中西重雄	2048
年 6月29日	小松市大杉谷			1030
1982年 6月18日	小松市嵐	1 ♀	中山佐一郎	9025
1985年 4月14日	加賀市柏野	約5 0 幼	野中 勝	
1977年 7月10日	山中町市の谷	1 ♂	納屋善雄	9094
1980年 4月27日	山中町真砂	1 幼	野中 勝	2027
1989年 3月19日	山中町鶴ヶ滝	2 幼	野中 勝・他	
1982年 7月 3日	山中町風谷	1 ♀ 目撃	竹谷宏二	2044

## 2 ウラキンシジミ

金沢市以南に広く分布すると思われるが、人気がないのか記録は少ない。能登に於いても卵調査は成されているが、未だ発見されていない。

文献

1972年 7月 2日	金沢市キゴ山	3頭	松井正人	2005
1984年11月29日	金沢市医王山	20卵	中西重雄	2048
1979年 5月20日	金沢市医王山菱広峠	3幼	松井正人	
1978年12月10日	金沢市横谷	10卵	松本和馬・他	2003
1981年 5月 9日	金沢市桐山	2幼	嵯峨井淳郎	2021
1978年12月24日	金沢市見上峠	10卵	井村正行	2005
1979年 5月 6日	金沢市国見山	2幼	野中 勝	2008
1978年12月10日	金沢市順尾山	5卵	野中 勝	2005
1958年 7月17日	金沢市成ヶ峰	1♂	手塚正一	9016
1970年 7月 5日	金沢市倉ヶ岳	1頭	三陰外茂治	9019
1984年12月17日	金沢市坪野	20卵	中西重雄	2048
1975年 6月22日	金沢市田上		井村正行	2005
1982年 6月11日	金沢市田島	1頭	岩下泰子	
1980年 5月 6日	金沢市湯涌	12幼	嵯峨井淳郎	2020
1980年 5月 6日	金沢市湯涌温泉	10幼	諸道秀人・他	
1982年11月28日	金沢市菱池	1卵	野中 勝	2036
1979年12月19日	金沢市俵	14卵	野中 勝	2020
1981年12月 6日	鳥越村杖川	12卵	野中 勝・他	2027
1970年 7月26日	尾口村岩間温泉	2頭	嵯峨井淳郎	2005
1985年 8月 4日	尾口村中の川	1♀	松井正人	
1979年 8月12日	白峰村白山釈迦林道	1♀	吉村久貴	
1984年12月 9日	小松市鞍掛山	70卵	野中 勝	2051
1984年 6月22日	小松市動山	1頭目撃	中山佐一郎	9036
1983年 6月30日	山中町我谷	1♂目撃	竹谷宏二	2050

## 3 ムモンアカシジミ

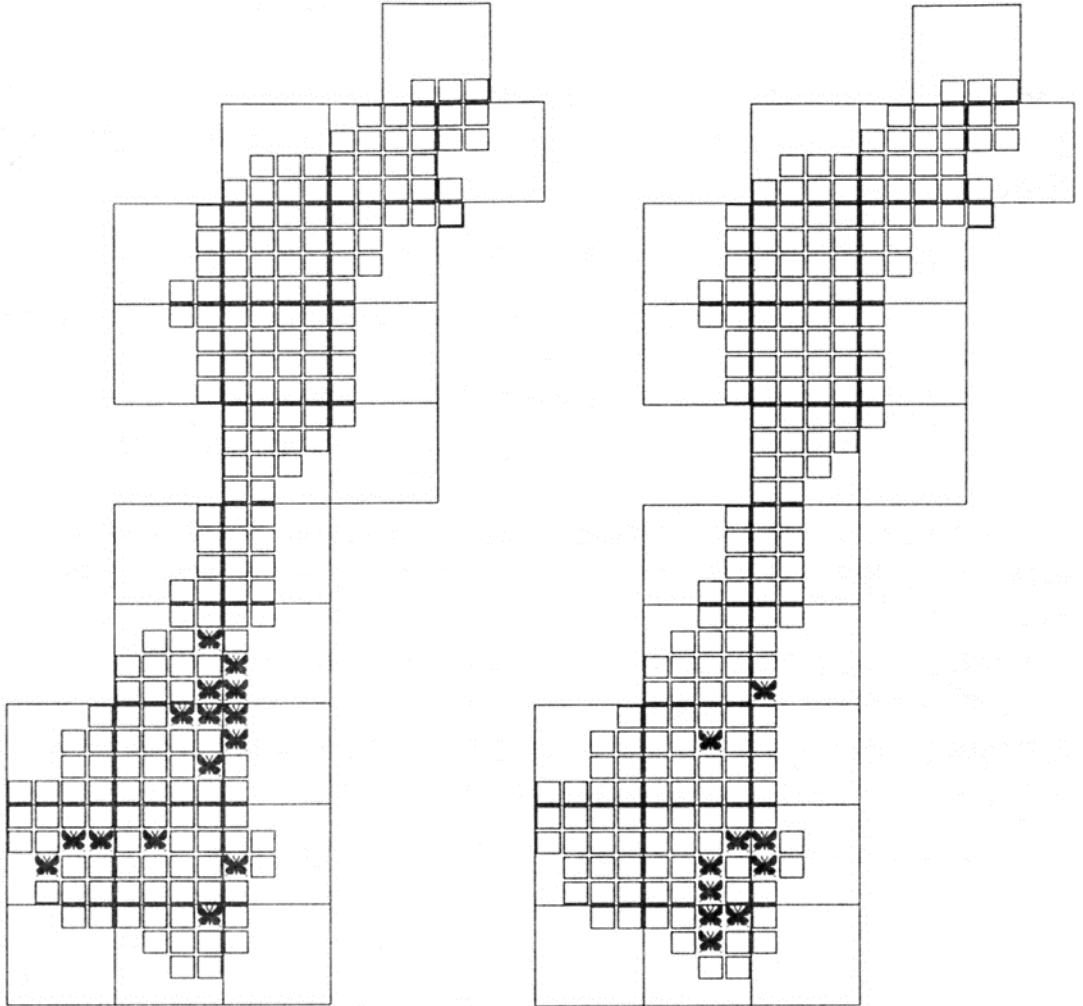
1984年に白峰村大杉谷で松田俊郎氏が再発見するまでの26年間、県内からは知られなかった。その後これが起爆剤と成り、各地で確認され現在に至っているが、発生木が確認されているものは少ない。白山周辺にはまだまだ多くの産地があるものと思われる。

文献

1987年 8月 8日	金沢市医王山	1♂	澤田 博	2066
1984年 8月17日	鶴来町獅子吼高原	1頭	松田俊郎	2050
1958年 7月28日	吉野谷村中宮	1♂	近藤征四郎	1009
1987年10月 6日	尾口村新岩間温泉	1♂目撃	勝海雅夫	2067
1985年 8月18日	尾口村深瀬手取ダム湖畔	1頭目撃	吉村貴己	2053
1985年 9月 1日	尾口村白山楽々新道	1頭目撃	中西重雄	2053
1985年 7月28日	尾口村目附谷	5♂	松井正人	
1987年 9月15日	白峰村根倉谷出合	1♀目撃	勝海雅夫	2067
1987年 8月 9日	白峰村砂御前山	1♂	嵯峨井淳郎	2069
1988年 7月31日	白峰村大杉谷	5蛹	野中 勝・他	2075
1957年 8月17日	白峰村白山湯の谷	1♀	手塚正一	9015
1988年 7月31日	白峰村百合谷	2蛹	野中 勝	2075

ウラキンシジミの分布

ムモンアカシジミの分布



《 参考文献 》

- 9015) 武藤 明(1958)石川県の蝶 新昆虫 11(3):39-40  
 9016) 手塚 正一(1958)金沢市付近の蝶 2題 新昆虫 11(10):50  
 9019) 武藤 明(1971)石川県のチョウに関する新資料 生物研究 15(1・2):20-21  
 9025) 中山佐一郎(1984)小松市とその周辺の蝶について(第2報)  
           小松市立博物館研究紀要 21:26-30  
 9036) 中山佐一郎(1985)小松市とその周辺の蝶について(第3報)  
           小松市立博物館研究紀要 22:67-68  
 9069) 武藤 明(1971)石川むしの会特別報告 2  
 9094) 納屋 善雄(1977)加賀南部のチョウとトンボ 昆虫と自然 12(13):23-24  
 1000~1099) 石川むしの会の「とっくりばち」を示し、下2桁は号数を示す  
 2000~2099) 百万石蝶談会の「翔」を示し、下2桁は号数を示す

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

ゴイシモモブトカミキリを採集

井村正行

カエデの伐採した枯枝についていた本種を採集しているので報告する。石川県のゴイシモモブトカミキリ (*Callapoecus guttatus*) の記録は、白峰村釈迦林道の2例に続く3例目と思われる。

1990年7月29日 白峰村大杉谷林道 1♂ 井村正行

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

続スギノアカネトラカミキリの訪花例

野中勝

スギノアカネトラカミキリ (*Anaglyptus subfasciatus*) の石川県での訪花植物として、筆者は既にサワフタギ、クリを報告しているが(翔NO.84, 1990)、今年はやグルマソウへの訪花を観察しているので報告する。

百合谷(びゃっこだに)のスギ植林地の林床で、薄暗い所に生えたヤグルマソウの花上で2頭、シダの葉上で1頭の本種を採集した。また、付近の林縁の比較的明るい所にあったサワフタギの花からは、5頭の本種と3頭のマツシタトラカミキリ (*Anaglyptus matsushitai*) が得られた。

1990年6月10日 白峰村百合谷 野中勝 採集

スギノアカネトラカミキリ 8頭

マツシタトラカミキリ 3頭

《のなか まさる 〒920 金沢市末町14-70-2》

金沢市医王山でホソヒゲケブカカミキリを採集

澤田博

石川県では記録の少ないホソヒゲケブカカミキリ (*Eupogoniopsis tenuicornis*) を、金沢市医王山において、カエデ類の新しい倒木で採集したので報告する。

1990年7月16日 石川県金沢市医王山重山林道 1♂1♀ 澤田博

なお、近似のクリイロチビケブカカミキリ (*Terinaea atrofusca*) も、同じ医王山において、同年7月29日にマルバマンサクの枯枝に来ている1♀を採集した。最後に発表を進められた、井村正行氏にお礼申し上げる。

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》



## 奥能登に於けるカミキリムシ2種の記録

井村正行・中西重雄

奥能登では記録の少ないカミキリムシ2種を、輪島市高洲山で採集したので報告する。

1990年12月31日 輪島市高洲山

コバネカミキリ *Psephactus remiger* 1♂ 中西重雄採集

ヘリウスハナカミキリ *Pyrrhona laeticolor* 多数蛹 井村正行採集

コバネカミキリは輪島市宝立山の記録に続く能登での2例目で、山頂下部のミズナラ林にブナが混じりはじめた環境の、ミズナラの立枯木より死骸を採集した。

ヘリウスハナカミキリは、白山山麓や金沢市医王山で採集されているが、これまで能登での記録は無く、中腹部の雑木林の中に点在するサワフタギの立枯木や伐倒木から採集した。ここにはサワフタギがかなり多く見られ、これらの立枯木にはほとんど本種の加害が見られた。

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

《なかにし しげお 〒921 金沢市法島町9-49》

## 1990年収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額(円)	項 目	金額(円)
1990年度会費	74,000	会誌作成費	79,522
1988、89年度会費	4,000	例会費	12,000
会誌売上費	21,200	助成費	5,700
郵送負担金	9,000	郵送費	17,742
次年度繰入金	19,645	消耗品費	5,387
		前年度繰入金	7,494
計	127,845	計	127,845

## 備 考

- \*1988年度会費 完納
- \*1989年度会費 未納2人
- \*1990年度会費 未納10人
- \*年会費 2,000円
- \*郵送負担金 500円

## これで良いのか、「1990年石川県虫界ベスト3」

野 中 勝

1990年も最後の例会が12月7日に開かれ、例年の如く「石川県の虫界重大ニュース」が参加者の投票によって決定された。選ばれたベスト3は、

- 1位 石川県初のアサギマダラの幼虫確認 (翔87号)
- 2位 金沢市見越山におけるアサマジミの分布確認 (翔86号)
- 3位 ウスイロコノマチョウ (迷蝶) の写真撮影 であつた。

3票の持票をいずれも1～3位以外に投票した筆者としては、当然の事ながら以下にベスト3の意義よりも苦言を述べたいと思う。

1990年は虫の当たり年で話題に事欠かなかつたはずであるが、選ばれたベスト3を見る限りでは、例年との違いは感じられず、マンネリの印象が強い。先ずアサギマダラの幼虫では、これまでに石川県では、春から夏にかけて少数の、秋に比較的多数のアサギマダラが採集されており、県内で発生している事は予想されていたと言うよりはむしろ自明の事であり、まして食草が既知のオオカモメヅルとあつては、いったいどこがおもしろいのかと言いたくなる。次に金沢市のアサマジミであるが、本種はこれまでに石川県では尾添川流域からのみ知られており、水系の異なる犀川上流での分布確認はある程度の評価に値しよう。しかし、行政区分上はいかに金沢市に属しているとはいえ、採集地は標高約1500mの山中で、既知産地同様白山山塊の一部であり、金沢市のアサマジミという言葉の響きとは裏腹に、これまでと全く異なる生息環境が発見された訳ではない。3位の迷蝶の撮影は、迷蝶という不確実なものをカメラに修める努力が並大抵ではないことは理解できるものの、迷蝶の写真が我々の自然に対する理解をどれだけ深めるかは疑問であると言わねばならない。

他に何もなかつたのならこれでも止むを得ないであろう。しかし、1990年は人気の高いヨコヤマトラカミキリを初めとしてカミキリ、シャチホコガ等の石川県初記録が出て石川県の昆虫相の理解が深まつたし、また新潟県での事とは言え、会員の手によって全国初と思われるセアカオサムシの冬期に於けるまつまった採集例が報告され、本種の越冬生態の一部が明らかになつたのである。これらがベスト3に入らなかつた理由は極めて明白で、対象が蝶でなかつたからであろうが、筆者としては蝶オンリーの会員諸氏にもう少し広い視野に立つ事をお願いしたい。蝶が他の自然界から独立して存在しえない以上、他の虫に対する知識も必ず何らかの形で蝶の理解の助けになるはずである。膨大な種を含む昆虫全体は無理としても、人気もあり、研究も進んでいる蛾、甲虫の一部などに対する最低限の知識、興味を有する事は蝶屋の必要条件といつても良いだろう。また、他の県で知られていた事が石川県でもと言うのは、特殊な場合を除いて重要な事とは考えられないので、次回は色々なムシに対する全国的な新発見でベスト3が占められる事を祈りたい。

《のなか まさる 〒920 金沢市末町14-70-2》

## 会員の動き・しゃばの動き

✚現在、蝶談会は写真集「石川の昆虫」に取り組んでいる。期間は1年。今は「越冬する虫」を撮っている。

✚栗崎でサツマイモが開化。鹿児島で30%、沖縄で90%と低緯度地方ほど開化率が好いことから、今秋いかに高温だったかが伺い知れる。

✚11月25日山岸氏、連れ添う。虫も採らない海外旅行を重ね、独身三昧していた氏もついに年貢の納め時？それとも銃後の守りを固めて、さらに・・・。

✚小幡氏、1人増える。現在育児ボケ、親バカボケ、注意報発令中とか。なお2世は溪太朗君なり。

✚12月のある日、澤田氏、何だか知らないが、肩が凝って仕方が無いとオオヒカゲの様に首を振っていた。

✚12月27日指田氏、マレーシアへ出発。前の晩に連絡が入り、あわただしく日本を後にした。

✚12月28日出嶋利明氏、来沢。大学時代まで金沢に住んでいた氏は、幻と化したクロシジミの採集者でもある。詳細は「昆虫と自然」26(2):1991に載っている。

✚12月31日中西、井村のガタガタコンビ、コルリの新産地を求めて高洲山へ。ところが積雪に行く手をはばまれ、ふもとで調査。コルリは出なかったものの、何やら面白いものが出たらしい。

✚高羽氏は写真が苦手。あちこちと動きまわる虫にはピントが追いつかず、ファインダーをのぞいているとイライラしてくるらしい。

✚嵯峨井氏、元旦早々前夜からの泊まり込みで悪戦苦闘。8日までは体が空かないとかで、恒例の「お酒と親しむ会」はおあずけ。残念！

✚松井氏、写真集用にとゼフ卵のアップを撮ったところが、汚れが目立って使えず。今から9月の採卵を考えている。

✚1月4日またもや中西、井村のガタガタコンビ、加佐岬で仲良く朽木の破壊。ヤコンはポロっと出たものの、その他は不明な幼虫ばかり。

✚キオビトラの誘引剤が開発されている。ベンジルアセテートやこれにフェニルエチルプロピオネートを混ぜたものが良いらしい。これを枝下それも地上4m程にセットすると最も効果があるらしい。(青森林試)

✚1月6日野中、中西組、片山津温泉へ。「湯けむりのオサ」を撮ろうと出かけたが、雪があつて思うにまかせず、挙げ句の果てにはストロボが蒸気でショートしたらしい。

✚1月7日指田氏、マレーシアより帰る。ジョホールで平地性イナヅマの大珍品を採った他は、ボチボチだったとか。

✚井沢氏、バリで新居を構え、メイドを2人も雇って悠々自適に暮らしている。怠惰な生活にもすっかり慣れたとか。

✚野中氏、毎朝自然と長靴をはいて出勤するらしいが、職場に近づくに従って違和感が増すらしい。気象庁によれば今年は山雪型らしいが、予報は当たっている。

❖「とっくりばち」57号発行さる。三方岩岳のエルタテハ、津幡町瓜生のウスバシロ、白山別当出合のクロハナカミキリ等々。

❖1月15日松井、上田、野中の3氏、降雪の金沢を離れ、一路能登へ。輪島ではお天気に恵まれたものの、クロコムラサキは全くの不調。門前、富来と転戦したものの残敗。

❖愛妻家の吉岡氏、あれこれ採りたいものがある、今年九州を攻めたいともしたが、実のところ九州にはカミさんの実家あるのです。

❖欲求不満のオサ屋達。写真集用の越冬窟を撮るために、これまで力まかせに崩していた崖を、今はなでるように削っている。おかげで力があり余って大変大変。

❖1月23日浅野川の畔、金沢情緒ただよ主計町「太郎」にて新年会。今年も大盛況で、19人の虫談義に花が咲いた。

例 会 の 記 録

12月7日(金)城南管工2Fにて8時より開催。今回は写真集に向けてのスライド映写会と10大ニュースの決定。スライドは最近写したものを中心に、中西、野中、松井、小幡と蝶以外のものを映写。10大ニュースは虫が多かった事から数多くノミネートされ、1位には「アサギマダラの幼虫発見」が選ばれた。

参加は、近藤、指田、野中、澤田、井村、竹谷、小幡、中西、江口、勝海、松井(2人)と久々に松井夫人の顔も見られた。

目 次

松井正人：アサギマダラを8月から9月に飼育	1
野中 勝：飼育失敗記：その1《スギタニルリシジミ》	2
松井正人：石川県に於けるゼフィルス分布	3
井村正行：ゴイシモモブトカミキリを採集	7
澤田 博：金沢市医王山でホソヒゲケブカカミキリを採集	7
野中 勝：続スギノアカネカミキリの訪花例	7
井村正行・中西雄：奥能登に於けるカミキリ2種の記録	8
野中 勝：これで良いのか、「1990年石川県虫界ベスト3」	9
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	10
編 集 部：例 会 の 記 録	11

とぶ NO.88

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方  
百万石蝶談会

☎ 0762-58-2727  
振替 金沢5-562

1991年2月8日発行

印刷 小西紙店印刷所